

学位授与番号：乙 3 1 2 9 号

氏 名：松本 晶

学位の種類：博士（医学）

学位授与日付：平成 27 年 11 月 11 日

学位論文名：

食道扁平上皮癌における UBCH10 Protein 発現と臨床的予後の関連性

主論文名：

High UBCH10 protein expression as a marker of poor prognosis in esophageal squamous cell carcinoma.

（食道扁平上皮癌における UBCH10 Protein 発現と臨床的予後の関連性）

学位審査委員長：教授 相羽恵介

学位審査委員：教授 吉田清嗣 教授 岡本愛光

# 論文要旨

論文提出者名	松本 晶	指導教授名	矢永勝彦
<p>主論文題名</p> <p>High UBCH10 Protein Expression as a Marker of Poor Prognosis in Esophageal Squamous Cell Carcinoma</p> <p>(食道扁平上皮癌における UBCH10Protein の発現と臨床的予後の関連性)</p> <p>Matsumoto A, Ishibashi Y, Urashima M, Omura N, Nakada K, Nishikawa K, Shida A, Takada K, Kashiwagi H, Yanaga K</p> <p>Anticancer Res. 2014;34(2):955-61.</p> <p>【背景】 ユビキチン結合酵素である UBCH10 は細胞周期で中期から後期へ移行するのに必要とされる。食道癌での UBCH10 の発現が食道扁平上皮癌の患者の予後に関連するか否かを検討した。</p> <p>【方法】 食道癌患者 121 人の外科的切除標本を UBCH10 抗体で染色し免疫組織学的に分析し、臨床病理学的因子および無再発生存率について解析を行った。</p> <p>【結果】 UBCH10 は癌及び異形成組織でのみ発現し正常組織では発現しなかった。121 人の患者を染色の程度により高発現群 (N=33) と低発現群 (N=88) に分類した。これら 2 群間でリンパ管侵襲、リンパ節転移の個数、TNM 分類、進行度及び生存率において有意差を認めた。50% 生存率は高発現群 2.3 年、低発現群 9.9 年であった。<math>(p&lt;0.0001)</math>。進行度を調整した Cox hazard model での多変量解析では食道癌取扱い規約の病期分類の他に UBCH10 高発現が有意な予後不良因子であった (Hazard ratio=2.5; 95% Confidence interval:=1.3-4.5; <math>p=0.004</math>)。</p> <p>【結語】 食道扁平上皮癌で UBCH10 タンパクの発現は予後不良の予測因子となり得ることが示唆された。</p>			